

米国 モメンタムが加速し稼働率も上昇(07年4月鉱工業生産)

発表日：2007年5月16日（水）

～公益が増加に転じたことに加え、製造業生産はハイテク・自動車主導で高い伸びを維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率		生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	稼働率	製造業 (NAICS)	
06/04	+0.9	(+4.5)	+1.0	+1.2	▲0.1	+3.6	+1.0	▲0.0	+81.9	+80.4	+0.2
06/05	▲0.1	(+4.0)	▲0.2	+0.9	+0.3	+1.8	▲0.5	▲1.7	+81.7	+80.1	+0.2
06/06	+0.9	(+4.3)	+0.9	+0.4	+1.6	+1.6	+0.6	+2.1	+82.3	+80.6	+0.2
06/07	+0.4	(+4.7)	+0.4	▲0.1	+1.2	+1.7	+0.3	▲4.1	+82.4	+80.8	+0.2
06/08	+0.2	(+4.6)	+0.4	▲1.1	+0.0	+2.5	+0.1	+1.9	+82.4	+80.9	+0.2
06/09	▲0.3	(+6.0)	▲0.0	+1.1	▲3.9	+3.1	▲0.4	▲1.3	+82.0	+80.7	+0.2
06/10	▲0.2	(+4.6)	▲0.9	▲0.1	+5.0	+1.7	▲0.7	▲3.6	+81.7	+79.8	+0.2
06/11	▲0.4	(+3.0)	▲0.2	▲0.2	▲2.7	+0.8	▲0.2	+3.5	+81.3	+79.5	+0.2
06/12	+0.6	(+2.8)	+1.2	+1.8	▲4.1	+1.1	+1.2	+1.7	+81.6	+80.3	+0.2
07/01	▲0.5	(+2.4)	▲0.7	▲2.3	+2.5	+0.6	▲1.0	▲5.9	+81.1	+79.6	+0.2
07/02	+0.8	(+2.9)	+0.1	+0.6	+7.3	+0.3	+0.2	+2.4	+81.6	+79.5	+0.2
07/03	▲0.3	(+2.1)	+0.6	+0.1	▲7.5	+1.8	+0.5	+0.2	+81.2	+79.8	+0.2
07/04	+0.7	(+1.9)	+0.5	▲0.3	+3.5	+2.6	+0.5	+3.3	+81.6	+80.0	+0.2

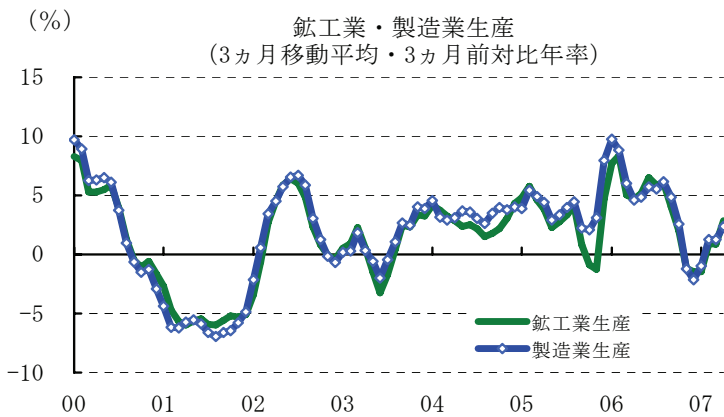
(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

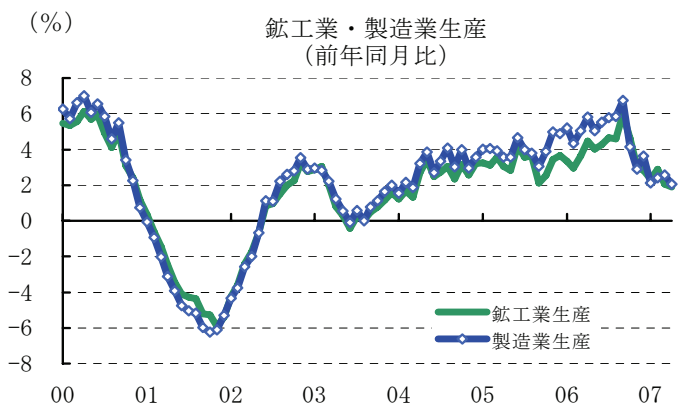
鉱工業生産は前月比 +0.7%と市場予想 を上回った

07年4月の鉱工業生産は前月比+0.7%とプラスに転じ市場予想の同+0.3%を上回った(1、2、3月合計で同0.2%下方改定)。鉱業が減少に転じたものの、製造業が前月と同程度の伸びを維持し、公益が平年並みに戻った気温によりプラスに転じた。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+2.9%(前月+0.9%)とプラス幅を拡大しモメンタムは加速している。

製造業は、自動車生産、需要の強いハイテク、航空機、一次金属、加工金属、プラスチック、化学が増加したことで前月比+0.5%とプラスを維持した(1、2、3月合計で同0.2%下方改定)。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+2.4%(前月+1.2%)とプラス幅を拡大しており、製造業生産のモメンタムも加速している。



(出所) FRB



(出所) FRB

稼働率は比較的高い水準を維持

稼働率は生産能力が前月比+0.2%と拡大したものの、生産が同+0.7%となったため81.6%（3月分は速報の81.4%から81.2%に下方改定）と前月から上昇した。製造業稼働率は80.0%（3月分は速報の79.9%から79.8%に下方改定）と上昇した。

拡大した製造業生産は19業種中12業種に減少

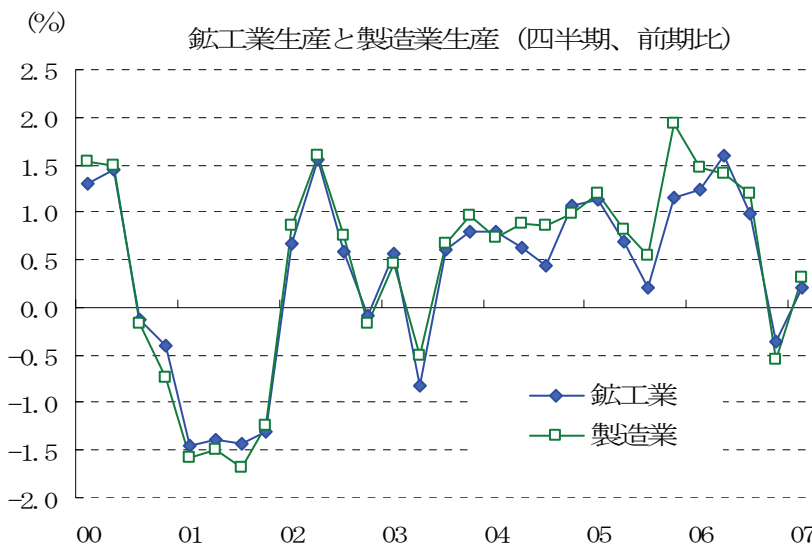
業種別にみると、鉱業は前月比▲0.3%（前月同+0.1%）とマイナスに転じた。公益は3月の温暖な天候の後、4月に平年並みの気温に戻ったため天然ガスが同+11.8%（▲15.9%）、電力が同+2.0%（同▲5.8%）と上昇に転じたことで、全体でも同+3.5%（▲7.5%）と増加した。

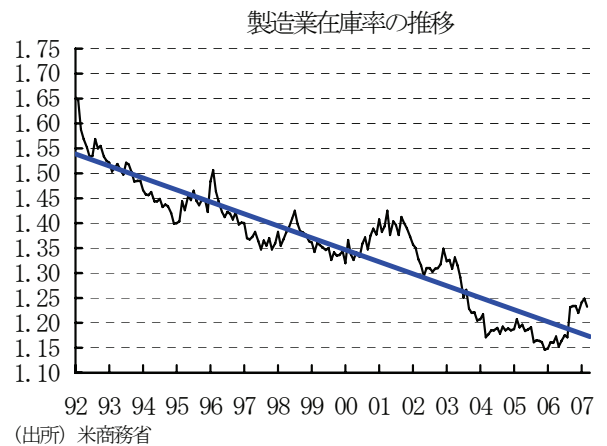
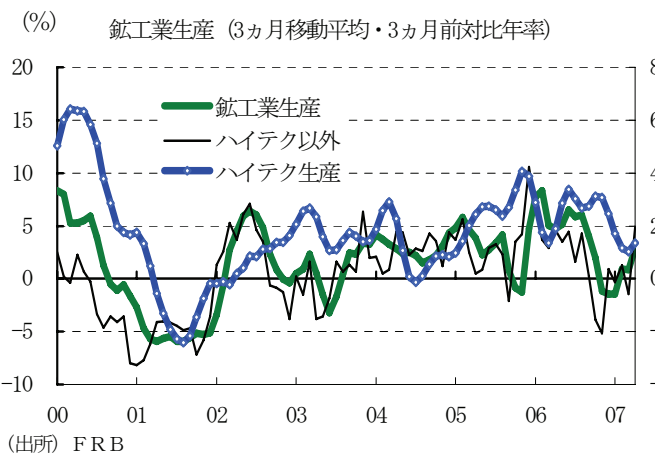
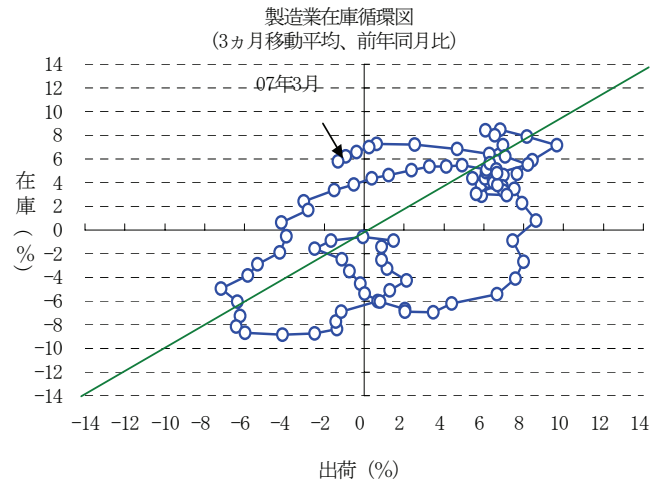
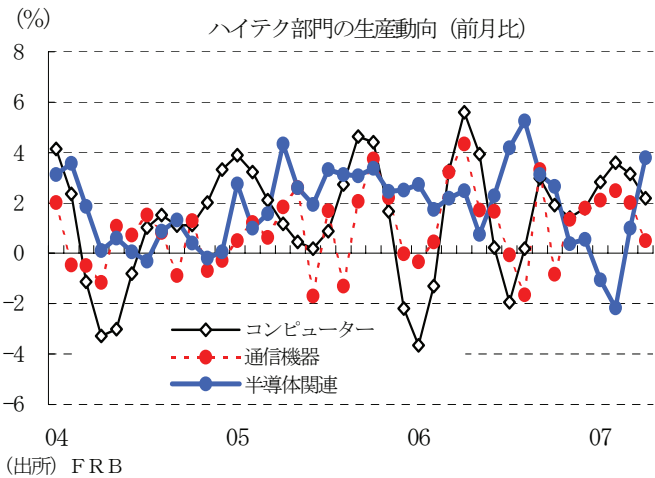
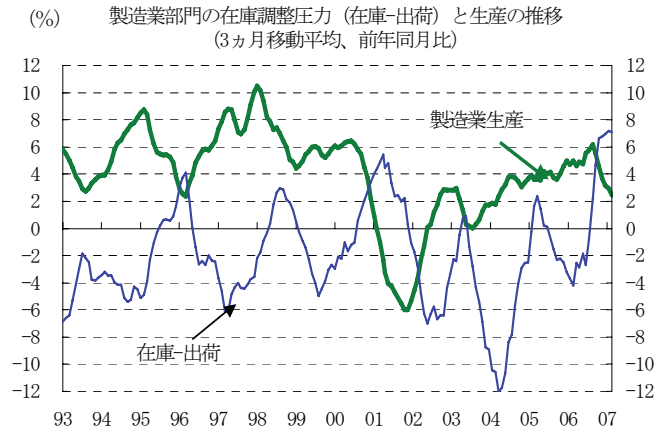
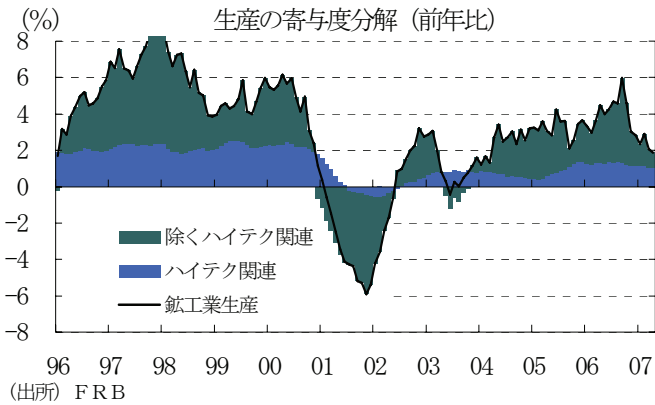
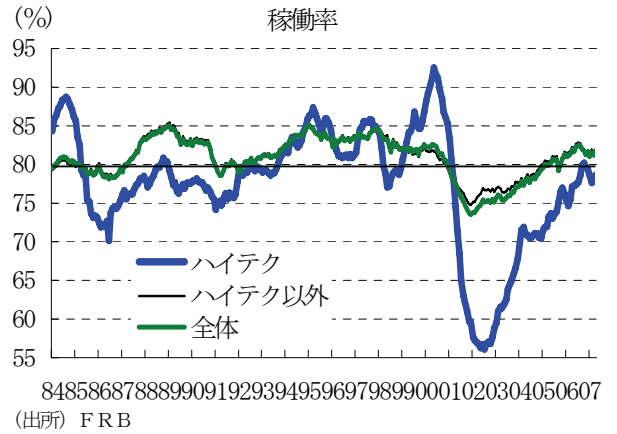
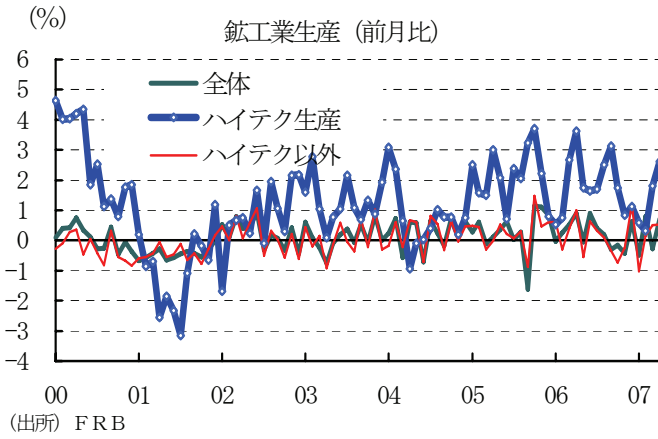
製造業は拡大した業種数が19業種中12業種（前月14業種）と減少したが、前月比+0.5%と前月並みの伸び率を維持した。セクター別にみると、自動車関連の生産は完成車が前月比+5.8%と増加に転じたうえ、自動車部品が同+1.6%と加速したため、同+3.3%と3ヵ月連続の増加となった。他方、ハイテク関連は通信機器が同+0.5%、コンピューターが同+2.2%と鈍化したものの、半導体が同+3.8%と加速したことにより同+2.6%（前月同+1.8%）と拡大ペースが速まった。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+13.4%と前月の+10.2%から加速しておりモメンタムが再び強まっている。また、航空機部門の生産は前月比+0.8%とプラスとなり、前年同月比+9.7%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産を下支えしよう。

一方、住宅建設の大幅な減少により木材、家具の生産調整は続いている。さらに、輸入製品との価格競争の激しい繊維等でも生産の減少が続いている。

生産は持ち直しの動き

2007年前半は在庫投資の抑制、住宅投資の大幅な減少等によって緩やかなペースでの景気拡大が予想される。そのような中で、自動車では米メーカーの販売不振によって生産調整が行われているが、自動車販売が堅調さを維持するとみられ2007年前半に同部門での在庫調整が終了すると見込まれる。また、住宅関連では住宅投資の大幅な減少が2007年前半続くとみられ、関連部門の生産調整も年前半続くと予想される。このように、製造業生産は2007年前半緩やかなペースでの拡大にとどまると見込まれる。しかし、在庫調整の終了に伴い年後半には拡大ペースが加速しよう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。